



●水菜ちゃん



楽しい川遊びを
安全に教えてくれる

- 第1章
川遊びはとてもおもしろい。
みんなは、もう、
経験しているかな？
- 第2章
さあ、小貝川で川遊びを
楽しんできなさい。
どんな体験が待っているかな？
- 第3章
子どもたちといっしょに
川遊びをするリーダーたちは、
どんなことを勉強するのかな？
- 第4章
川を知ること、安全対策、
体験活動の方法、リーダーは
なにを勉強するのかな？



●川の水博士

川の指導者が 知っていること、 知ってる？

川遊びを教えてくれる人がいると、
うれしい。その人といっしょに
川に行きたい！

仲間もしげんにできた。遊びも自分で工夫した。
川遊びはふだんとちがう経験がいっぱい！

川の自然、川と人や社会のかかわりから、
カヤックなどの実技に救命法まで、
勉強することはたくさんある！

川という自然を知る。
川遊びをする川の個性を知る。
危険を予知する。
リーダーにはこれらが必要！



●早瀬くん



川遊びはとても おもしろい。みんなは、 もう、経験しているかな？

川遊びはどうやっておぼえるの？

- 博士 ● 水菜ちゃんと早瀬君、きみたちは、最近、川に行ったかい？
- 水菜 ● この間の連休に家族で川下りの船に乗りました。
- 早瀬 ● ぼくは、週末、おとうさんと釣りに行きました。
- 博士 ● それはよかった。水菜ちゃんはいいい思い出ができたね。ところで川で遊んだりはしなかったのかな？
- 水菜 ● わたしは、まだ、川のなかで遊んだことがありません。
- 早瀬 ● ぼくもないな。おじいさんからは、夏に近くの川で泳いで遊んだ話を聞いたことがあるけれど、両親も川で遊んだ記憶がないそうです。
- 博士 ● でも、川でなにかしたことはあるだろう？
- 早瀬 ● はい、「総合学習」の時間に川の水質調査(10ページ参照)をしました。
- 水菜 ● わたしも近くにある「水辺の楽校」で、水生昆虫を調べました。
- 博士 ● 「水辺の楽校」というのは、国土交通省が全国の川で進めているプロジェクトのことだね。子どもたちが川に親しみ、学べるように水辺を整備している。学ぶだけでなく、ボランティアの人の協力で、ボートに乗ったり、投網を体験したり、泳いだり、遊べるところもある。
- 水菜 ● でも、子どもたちだけで川に行くのは危険だといわれています。
- 早瀬 ● ぼくもそういわれた。博士は、子どものころ、川遊びをしましたか？
- 博士 ● 近所の遊び仲間に連れられて、川で遊んでいるうちに、泳ぎも魚のつかまえ方もしぜんにおぼえた。危険につながることや危険な場所を教えてくれるのは、年上の子の役目。むかしはかならずそういう子がいたものだよ。
- 早瀬 ● そういう仲間、ぼくのまわりにいないなあ。
- 水菜 ● むかしのように、川遊びを教えてくれる人がいれば、いいのにね。

ラック RACのリーダーは川遊びのコーチ役

- 博士 ● じつは、子どもたちを川に連れていき、川から多くのことを学ばせたいと努力している人たちが各地にいる。たとえばRACという組織があり、子どもたちを川で遊ばせるリーダー、指導者を養成している(図1-1参照)。RACのリーダー・ジュニアリーダーは全国に2,701人、それより上級の指導者は316人いる(以上は2010年1月13日現在の講座修了者数)。

●「水辺の楽校」は全国各地に277カ所登録。東京都と神奈川県の間を流れる多摩川の「狛江水辺の楽校」では、楽校を運営する市民の方を講師に迎え、近くの小学生が川の自然を学んでいる(28ページ参照)。



●川は身近にあって、自然が豊かに広がる環境。魚が泳ぎ、河畔には植物が生え、鳥や昆虫が生息する。そして泳いだり、釣りをしたり、遊んだりできる。そうした川の可能性を子どもにもおとなにも体験してもらう努力が各地で進んでいる。写真は北海道を流れる石狩川。

◎RAC(River Activities Council)川に学ぶ体験活動協議会

全国各地の川で活動するNPO法人や市民団体で構成される協議会。2000(平成12)年9月に設立され、2005年12月にNPO法人として認証された。川での体験活動の支援・推進を時代にあわせて総合的に展開している。さまざまな活動のなかでも、川での安全で楽しい体験活動を実現するために、「指導者養成」や「子どもの水辺安全講座」などに力を入れている。

図1-1 RAC 指導者の種類と認定の流れ



[出典: 『川に学ぶ体験活動協議会指導者養成ハンドブック』]
*コーディネーターより上級の「トレーナー」という資格もある。





●RAC指導者の資格をもつ人たちが、全国各地で子どもたちに川遊びの楽しさを体験させている。大淀川の支流、沖水川でRAC指導者のひとり、池辺さんが「川遊びのコーチ」になって、ライフジャケットの着用法から川流れまで指導(24ページ参照)。



表1-1 RAC「川に学ぶ体験活動の理念」

- 一、川に学ぶ体験活動は、感動する心を大切に、川と遊び学ぶ楽しさを伝えます。
- 二、川に学ぶ体験活動は、川への理解を深め、川を大切にする気持ちを育てます。
- 三、川に学ぶ体験活動は、ゆたかな人間性、心のかよった人と人のつながりを創ります。
- 四、川に学ぶ体験活動は、人と川が共存する文化・社会を創造します。
- 五、川に学ぶ体験活動は、川の力、活動にともなう危険性を理解し、安全へ意識を高めます。

【出典：『川に学ぶ体験活動協議会指導者養成ハンドブック』】

早瀬 ● 博士、RACって、なんですか？

博士 ● RACとは英語の「River Activities Council」の略で、NPO法人「川に学ぶ体験活動協議会」の通称だよ。ここには全国各地の川で活動する市民団体やNPO法人が参加していて、川で学ぶ体験活動を広める活動をしている。RACには5つの理念がある(表1-1参照)。

早瀬 ● 一番目に「川と遊び学ぶ楽しさを伝えます」と書いてあります。

博士 ● RACでは積極的に、川とふれあい、川で安全に遊ぶ機会を提供している。RACの指導者たちが子どもたちをサポートするので、安全に川遊びを体験できる。

水菜 ● わたしみたいに経験のない子どもにも、川遊びを教えてくださいませんか？

博士 ● そのとおり。RACの資格をもっている指導者たちは、川にはいった経験のない子にも川遊びを教えてください。わたしが子どものころに教わった年上の子のように、みんなの安全を見まもりながら、いっしょに川で遊んでくれる。

早瀬 ● 川はプールとちがって流れがあるし、深いところもあるから危ないといわれますけれど……。

博士 ● 川だけでなく自然のなかでの遊びには危険がつきものだ。でも、RACの指導者たちは、子どもたちが川で楽しく安全に遊べるように、川の危険性を正しく理解し、その危険性を伝える技、もしものときの対処法などをマスターしている。

水菜 ● 川遊びだけでなく、川のこと安全のことよく知っているのね。

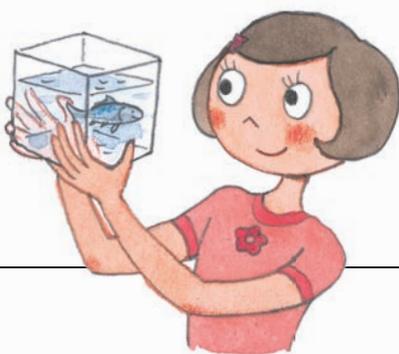
博士 ● 毎年、たくさん子どもたちがRACの指導者たちのもとで川遊びを体験している。きみたちも、16歳になれば、RACの初級講座を受けてジュニアリーダーになれる。だが、その前にまず、川で遊ぶことを経験するといい。財団法人ハーモニセンターでは、夏休みに茨城県の小貝川で川遊びのプログラムを主催している。RACの指導者がつきそってくれるから、安全に、川遊びの楽しさが体験できるだろう。



●RACの指導者になるには、川のことや安全対策などの講義をうけ、川の活動で実施するカヤックなどの実技を学ぶ。それぞれの分野の専門家が講習をうけもち、初級(リーダー)の資格をとるには計21時間の講習をうける。写真は財団法人ハーモニセンターで開催された指導者養成講座の光景。

◎財団法人ハーモニセンター

文部科学省所管の財団法人。自然体験を通じて青少年の成長を手助けする活動を全国で展開している。



川遊びを教えてくれる人がいると、
うれしい。RACの指導者なら
いっしょに川で遊んでくれる!

さあ、小貝川で川遊びを楽しんでください。どんな体験が待っているかな？



●ハーモニセンター主催の体験活動が行われる付近の小貝川は流れがゆるやかで、川遊びには絶好の場所。

博士 ● それでは、水菜ちゃんと早瀬くん、小貝川で財団法人ハーモニセンター主催の川遊びプログラムに参加してきなさい。

水菜 ● はい、いまからわくわくしています。楽しいといいな。

早瀬 ● 帰ってきたら、博士にいろいろなお話ができるよう、ぼくも精いっぱい楽しんできます。それと RAC のリーダーの方から、川遊びのリーダーのところがまえなどをうかがってきます。

博士 ● リーダーのみなさんの注意をよくまもって、楽しんでおいで。

小貝川ではじめての川遊び

佐藤* ● 水菜ちゃん、早瀬くん、こんにちは。RAC インストラクターの佐藤です。

早瀬 ● 早瀬です。よろしくをお願いします。

水菜 ● こんにちは、佐藤さん。水菜です。川遊びははじめてなので、すこしドキドキしています。ちょっぴり不安です。

佐藤 ● だいじょうぶ、心配することはなにもありませんよ。ここではあまり道具は使いません。脚立、スコップくらいです。そのほかでは、E ボートとカヤックが体験できます。

水菜 ● 脚立って、はしごみたいなものでしょうか？ それをどうするのですか？

佐藤 ● 川のなかに高い脚立、中くらいの脚立、小さな脚立を立てます。いちばん高いものは 4m。その上から飛びこみます。

早瀬 ● えっ、4m。おとなの人でものぼるのがこわくないですか？

佐藤 ● 小さな脚立から順番にチャレンジしてみるといいわ。

早瀬 ● いちばん高いところから飛びこめたら、友だちに自慢できますね。

水菜 ● スコップではどんなことをするんですか？

◎小貝川

栃木県那須烏山市を源として発し、茨城県利根町で利根川に合流する利根川水系の一級河川。本川流路延長111.8km。流域面積1,043.1km²。約6.7kmの小貝川フラワーベルトが整備され、春のポピー、秋のコスモスが多くの人の目を楽しませる。



●さあ、川のなかへ。小貝川の水は冷たいかな？ 川で遊ぶときは、子どもたちもリーダーたちもかならずライフジャケットを着用する。[写真提供/財団法人ハーモニセンター]

●小貝川の水面めがけてリーダーたちに投げこまれる経験もする。[写真提供/財団法人ハーモニセンター]





●脚立から小貝川に飛びこむ。いちばん高い4mの脚立は水面からの高さが2.5mはある(上)。[写真提供/財団法人ハーモニセンター]



●河原の砂浜にスコップを使ってみんなで大きなプールをつくる(上)。手で大きな山をつくっている子どももいる(下)。[写真提供/財団法人ハーモニセンター]



*財団法人ハーモニセンターの佐藤ともえさんにお話をうかがいました。



佐藤 ● スコップを使って砂浜で遊びます。でも、遊び方は自分で考えてみましょう。さあ、川に行きましょう。

遊びは自分で工夫するから楽しい

水菜 ● 川遊びって、こんなにおもしろかったのね。佐藤さんたちリーダーの人たちは、これをしなさいとかいわないので、はじめはちょっとびっくりしたけれど。

早瀬 ● これをしなさいいけないということがないのが、特徴。リーダーの人たちが見まもっている範囲でなら、何をしてもいい。自分で遊びを工夫したりしたことがなかったけれど、おもしろかったね。

水菜 ● スコップひとつでもダムをつくったり、池を掘ったり、貝を探したり、いろいろできたわ。シジミを見つけた子もいたけれど、わたしは探しているうちに水が出てきたので、トンネルをつくったわ。

早瀬 ● 遊んでいるうちに、いろいろなことを思いつくなんて想像もしていなかった。川流れも楽しかったね。学校のプールではあんなこと、絶対にできない。

水菜 ● 脚立からの飛びこみはうまくできたの？

早瀬 ● 4mの脚立は、飛びこむ前に飛びこみ方を相談した。リーダーの人たちは質問すると親切に教えてくれるね。

水菜 ● それから、はじめてのお友だちとしぜんに仲よくなれたのにもびっくり。帰る前に、リーダーにお礼をいわないと。

子ども同士のサポートも経験

水菜 ● 佐藤さん、今日はとても楽しかったです。ありがとうございました。

佐藤 ● はじめてでも楽しく川遊びができたみたいね。よかったわ。

水菜 ● リーダーに「それっ」って、川に投げこまれたのが、すごーく印象的。

佐藤 ● 空中に高く投げられる経験なんて、めったにないことですよね。リーダーたちは川で子どもたちと遊ぶのが得意なので、いろいろなことを考えつくのね。わたしは五感を使って、遊んでくれたらいいと思っています。

水菜 ● 川の水は思ったより冷たくなかったです。足の着かないところも経験しました。水中に潜ると、水のなかではこんなふうに見えるんだとわかったし、音のない世界も短い間だけ経験しました。

佐藤 ● 年長の子が、はじめて会った子なのに、年下の子のサポートをしていたでしょう。川で夢中で遊んでいると、そういうふれあいがよく起きるわ。それも川遊びのすばらしいところだと思います。

仲間もしぜんにできた。
遊びも自分で工夫した。
川遊びはふだんとちがう
経験がいっぱい!

子どもたちといっしょに川遊びをするリーダーたちは、どんなことを勉強するのかな？



博士 ● 小貝川での川遊びは楽しかったようだね。

水菜 ● リーダーの人たちはみんな、むかし、博士が川遊びをしたときの年上のお友だちみたいでした。川のことも川遊びのことも危ないこともよく知っている、やさしいおにいさんやおねえさんたちでした。

早瀬 ● ぼくも、川遊びを教える指導者になりたいと思いました。

博士 ● RACの指導者には「リーダー・ジュニアリーダー」から「コーディネーター」まで4ランクあり、「リーダー・ジュニアリーダー」の資格は16歳からとることができる(40ページ図1-1参照)。わたしがリーダー養成講座に参加して、話をうかがってこよう。



●計21時間のリーダー・ジュニアリーダー養成講座は2泊3日の日程で、夜おそくまで講義が続く。

RACのリーダーは4つの柱を学ぶ

博士 ● 青木さん、はじめまして。青木さんは安全講座の講師も務め、RACについてもくわしいとうかがいました。養成講座について教えてください。

青木 ● ^{**}こんにちは、川の水博士。早瀬君も水菜ちゃんも川遊びが楽しかったようですね。もっとたくさん子どもたちが、ふたりのように、川の楽しさを体験してほしいものです。でも、子どもたちを川に連れていくことで川での事故がふえたら、たいへんです。そこで、子どもたちが安全に川遊びを体験できるようにサポートする指導者を養成しなければということで、RACが発足し、RACによる指導者養成講座が開始されました。

博士 ● なるほど。今回のリーダー・ジュニアリーダー養成講座(表3-2参照)は講義と



●総勢10人が乗って力をあわせて漕いでいくEポートは、人気の川遊びプログラム。触先(へさき)と船尾にリーダーが乗る。[写真提供/財団法人ハーモニセンター]

表3-1 リーダー・ジュニアリーダーの必修科目と身につけるスキル

[出典:『川に学ぶ体験活動協議会指導者養成ハンドブック』。一部改変]

	科目	身につけるスキル
理念	川に学ぶ体験活動の理念	○RACの意義を理解し広く一般に伝えることができる
		○RAC指導者認定制度を知り、参加する方法を理解する
川の理解	川という自然の理解	○川という自然の体系的な仕組みや生態系について基礎的な概要を知る
	川と人、社会、文化の関わり	○川と人の暮らしの関わりについて基礎的な事柄が理解できる
		○人の生き方、暮らし方と川との関連について知る
安全対策	安全対策について	○RACでの安全対策、安全管理について知る
		○基本的な救急処置法を実習、経験する
		○指導者の責任、その範囲について知る
体験活動	川に学ぶ体験活動の基礎技術	○川に学ぶ体験活動における基礎的な技術の必要性を知り、これらを修得する
	対象となる参加者のことを知る	○自然環境への配慮・他利用者への配慮・川でのマナーの必要性を知る
		○参加者の状況を指導計画にいかす意味を理解する
		○指導者として参加者に配慮すべき事柄を理解する
	川に学ぶ体験活動の指導法	○川に学ぶ体験活動を提供する指導者としての心構えを認識する
プログラム作りの基礎知識	○RACの基本的な指導法とより効果的な指導法について知る	
		○川に学ぶ体験活動に適したプログラム作りの基礎知識を知る

(左列は編集部で追加)



「川における体験活動の指導法①」の実技

●リーダー養成講座では、「川における体験活動の指導法」の一環として、子どもたちが大好きなEボートの組み立てを実習する。空気ポンプで空気を送りこみEボートを組み立てていく。

表 3-2 RACリーダー養成講座(初級、CONEリーダー対応)

*財団法人ハーモニセンター主催

<p>講義 1: RAC・CONE 理念 講師: 平山康弘(RAC 常任理事)</p>
<p>講義 2: 学校教育における体験活動の意義* 講義 3: 教育課程と体験活動の関連性* 講師: 本木光史(独立行政法人国立青少年教育推進機構)</p>
<p>講義 4: 安全対策について② (危険予知トレーニングほか) 講師: 青木貴紳(財団法人ハーモニセンター)</p>
<p>講義 5: 川という自然の理解 講師: 増子三郎(元取手小学校校長)</p>
<p>講義 6: 川における体験活動の指導法① (Eボートの組み立てほか) 講師: 青木貴紳(前掲)</p>
<p>講義 7: 対象となる参加者を知る 講義 8: プログラム作りの基礎知識 講師: 佐藤繁一(NPO 法人国際自然大学校)</p>
<p>講義 9: 川に学ぶ体験活動の基礎技術 (ライフジャケット着用体験ほか) 講義 10: 川における体験活動の指導法② (カヤック講習会ほか) 講師: 高橋克佳(栃木カヤックセンター)</p>
<p>講義 11: 川と人・社会・文化の関わり 講師: 渡辺真二(神経科クリニック子どもの園)</p>
<p>講義 12: 安全対策について① (リスクマネジメントと普通救命講習) 講師: 青木 貴紳(前掲) 講師: 取手市消防本部 櫛木消防署の皆さん</p>

*財団法人ハーモニセンター主催のRACリーダー養成講座(初級、CONEリーダー対応)を取材しました。*の講座2、講座3は文部科学省「自然体験活動指導者養成事業」に対応したものです。

**財団法人ハーモニセンターの青木貴紳さんにお話をうかがいました。



川の自然、川と人や社会のかかわりから、カヤックなどの実技に救命法まで、勉強することはたくさんある!

実技あわせて計21時間あります。朝8時から夜9時まで、しかも2泊3日の集中講習で、学ぶ内容もじつに幅広いという印象をうけました。

青木 ● はい。RAC では、リーダーが学ぶ必修科目と身につけるスキルを定めています(表 3-1 参照)。今回の12 講座の内容はそれにしただったものです。

博士 ● 表3-1からは、リーダーが学ぶべき4つのだいじな柱があるように思います。

①RACの理念(41ページ表1-1参照)を理解すること ②川のことをいろいろ知る(理解すること) ③十分な安全対策ができること ④川の体験活動を参加者といっしょに楽しめること。こういうことでしょうか?

青木 ● はい、リーダーはその4つを学びます。

博士 ● 青木さんや佐藤さんの活躍ぶりを見て、早瀬くんはリーダーになりたいと思いはじめたようです。さっそく、リーダー養成講座の内容について報告したいと思います。青木さん、ありがとうございました。

講義 1 「RAC・CONE理念」
講義 2 「学校教育における体験活動の意義」
講義 3 「教育課程と体験活動の関連性」

養成講座その 1 : RACの理念を身につける

博士 ● リーダー養成講座では、まず、RACの理念をよく理解する講座がある。講義 1 がそれにあたり、今回は鶴見川で子どもたちと川の体験活動を進めてきた講師の方が、川での体験活動がだいじな点、そのためにも安全対策をきちんと指導できる組織が必要だったことを説明しながら、RACの理念とRAC設立のいきさつを説明された。

水菜 ● 講義2と講義3は学校と関係がある話ですか?

博士 ● 川や山など自然を舞台にした体験活動が子どもたちのこころや成長に、よい影響を与えることはよく指摘される。その自然体験活動を学校教育などのなかでどのようにとり入れていくか、学力との関係や指導法などを講師の方が説明された。青木さんの話では、6年生全員が小貝川で総合学習の授業をする小学校があるそうだ。川流れも体験して楽しく帰っていくそうだ。

早瀬 ● 川の水博士、ぼくははじめてEボートを経験しました。8人が乗りましたが、はじめて出会ったばかりなのに、みんなの気持ちと力がすぐにひとつになって、予想以上にうまく漕げました。その話を佐藤さんにしたら、川で遊ぶとき子どもたちは、会ったことのない子でもすぐに仲よしになれるといっていました。

博士 ● それはすばらしいことだ。RACの理念のひとつ、「川に学ぶ体験活動は、ゆたかな人間性、心のかよった人と人のつながりを創ります」は、ほんとうのことだね。

川を知ること、安全対策、体験活動の方法、リーダーはなにを勉強するのかな？



早瀬 ● 岸辺の砂のなかにシジミを見つけて、はじめての経験だったので感動しました。

博士 ● 川の体験活動で見つける「感動と楽しさ」は、RACが理念にかかげていることだ。理念というともむずかしいが、RACの発足に集まった人たちが川での体験から学んだことをまとめたものだ。きみたちが体験した感動や楽しさを子どもたちみんなに知ってもらいたい、そしてもっともっと川を理解してほしい、それがRACの理念の基本であり願いであるといえる。

水菜 ● 佐藤さんや青木さんのような指導者になるには、ほかにも勉強するの？

博士 ● そう、川についてもいろいろなことを勉強する。

養成講座その2：.....

講義 5：川という自然の理解
講義 11：川と人・社会・文化の関わり

川を知る(理解する)

博士 ● さて、川を知るには2つのポイントがある。ひとつは自然としての川を知ること。ふたつ目は、人間や社会とのかかわりから川を理解することだ。

早瀬 ● 自然というと山や海もあるけれど、川には川の自然があって、それを理解することが大切だということですか？

博士 ● 早瀬くんのいうとおり、川という自然の特徴を勉強するのが講義5だ。講師の方からは、川の流れるには浸食・運搬・堆積の3作用があること、瀬や淵があって場所によって流速がちがうこと、また川の生態系の特徴や食物連鎖など、川の自然全般について解説があった。そのうえで、川にはそこに生える植物、生息する動物など個性があることも教わった。それから治水や利水とその影響についても話があった。小貝川流域も水害に苦しめられた歴史がある。1986(昭和61)年には大水害が起きた。

早瀬 ● 川遊びをしたところよりすこし下流の堤防の上に「小貝川・藤代地区河川防災ステーション」がありました。

博士 ● 1986年の水害後に、防災拠点として建てられたものだ。講義11では、利根川の舟運をテーマに、川と社会の関連を勉強した。小貝川が流れこむ利根川(42ページ地図参照)には、大きな帆に風を受けて進む高瀬船が行き交い、東北地方の米は銚子から利根川、江戸川を通り、江戸に運ばれた。

水菜 ● 江戸時代の江戸は世界一の大都市だったと学校で習ったけれど、江戸の暮

「川という自然の理解」の講習

●小貝川は1986年に大水害に襲われたが、その後、安全な川をめざして治水整備が進められた。画面左は逆流防止と自然排水の目的で整備された北浦川水門。



「川と人・社会・文化の関わり」の講習

●利根川の舟運で活躍した高瀬船。東北地方の各藩から米などを江戸へ運ぶのに利用された。長さ約30mで1,200俵(約72トン)の米を運べたといわれる。[写真提供/千葉県立関宿城博物館]



「安全対策について②」の講習

●リスクマネジメント(安全対策)の方法のひとつ、「危険予知トレーニング(KYT法)」を学ぶ。3グループに分かれて、「川に学ぶ体験活動」の実施前、実施中、実施後の危険回避注意事項を検討した(上)。検討結果の発表も行われた(下)。





「安全対策について①」の実技

●取手市木消防署の救急隊員の方から心臓マッサージ(上左)とAEDを使用した心肺蘇生術(上中)を学ぶ。画面左のAEDを使用した心肺蘇生術も養成講座の大切な講義。よびかけても反応がない場合は、119番に連絡し、救急車到着までAEDを使って心肺蘇生術を実施する。まず倒れた人の気道を確認して、呼吸を確認。呼吸がなければ、人工呼吸2回と胸骨圧迫30回をくり返す。AEDが用意できたら、電極パッドを装着し、AEDの解析にしたがい電気ショックを実施する。その後、胸骨圧迫と人工呼吸を行い、救急車到着まで続ける。



●AED

らしをささえていたのは、利根川の川船だったんですね。

博士 ●川には交通路として各地をむすび、社会をささえてきた歴史がある。リーダーたちはそういうことも学び、体験活動の舞台となる川とその地域、流域のことも理解しておくことが必要だ。

養成講座その3： 安全対策を学ぶ

講義 4：安全対策について②(危険予知トレーニング)
講義 12：安全対策について①(リスクマネジメントと普通救命講習)

水菜 ●講義 4 の危険予知トレーニングというのは、どんなことをするのですか？

博士 ●体験活動で起こる可能性のある危険を、事前に予測し、その対策をあらかじめ考えておくトレーニングのことだ。1枚の写真に写った川を体験活動の現場と想定して、活動の実施前・実施中・実施後の3グループに分かれ、予測される危険と対策を検討・発表した。実施前を担当したグループは、参加者への注意事項、指導者側の準備、資材の準備の3項目に分けて危険回避プランを発表した。実施中のグループは天候急変時の避難場所、河原の安全点検、スタッフの配置ほかを対策にあげた。実施後グループは熱中症、おぼれた場合、外傷などの想定される事故とその対策の準備を紹介した。

早瀬 ●小さい川で遊んでいた人が、突然の大雨で、川があっという間に増水したため流された事故がありましたね。

博士 ●危険予知の訓練を積んでおけば、防げる事故もある。川には危険がいろいろ潜んでいるので、リーダーはいろいろな事例を学ぶ必要がある。

早瀬 ●講義 12 のリスクマネジメントとは、どんなことですか？

博士 ●この場合のリスクマネジメントとは、水辺で起こりやすい事故とその対処法のことだ。1日でもっとも事故が起こりやすい時間帯、河原のどのあたりで事故が起きやすいかなどを勉強した。また実際に起きた事故を例に、その原因や、指導者に過失があるかなども学ぶ。

水菜 ●普通救命講習というのは、命を救うことを習うのかしら？

博士 ●おぼれて心臓や呼吸が停止する(心肺停止)事故も、川では起きうる。万が一、そういう事故が起きたら、救急車が来るまで心肺蘇生法で救急救命措置を施す必要がある。そこで消防署で救急隊員の方から、AED(自動体外式除細動器)の操作法と人工呼吸、胸骨圧迫を指導していただいた。



「対象となる参加者を知る」の実技

●初対面の人たちでも仲よくなれる効果がある「アイズブレイク」という手法を用いたゲームを実習。



「川における体験活動の指導法②」の実技

●カヤックの実技講習を専門家からうけた。



講義 6：川における体験活動の指導法①
 講義 7：対象となる参加者を知る
 講義 8：プログラム作りの基礎知識
 講義 9：川に学ぶ体験活動の基礎技術
 講義 10：川における体験活動の指導法②

養成講座その 4：

川の体験活動を学ぶ

博士 ● 講義 7 と 8 では、参加者を知ることの重要性とプログラムづくりの基礎知識について勉強した。安全対策を立てる点からも、どういう子どもが参加しているか知っておく必要がある。初対面の子どもたちがすぐ仲よくなれるゲームも、この時間に実際に行った。講義 8 は、リーダー養成の段階からプログラムづくりの重要性を知る意味で、その基礎を勉強する。

水菜 ● 講義 6 と 10 では、わたしたちに教えてくれたことを習うのですか？

博士 ● そのとおり、リーダーたちは子どもたちといっしょに楽しく遊べるように基礎的な技術を学ぶ。川における体験活動の指導法①では、Eボートの組み立て(45ページ写真参照)とEボート使用時の救難実技、②ではカヤックの専門家からカヤック初級指導を受けた。

早瀬 ● 講義 9 はどんな内容ですか？

博士 ● ライフジャケット(PFD)の着用法とスローロープの使い方だった。

早瀬 ● PFDは川で遊ぶときは、かならず、つけるようにいわれました。スローロープは救助(レスキュー)用のロープですね？

博士 ● バッグを漂流者の近くに投げて、岸に引っ張りあげるのだが、ふだんから練習が必要だそうだ。PFDとスローロープの扱い方を「体験活動の基礎技術」として教えるのも、RACが安全に力を入れている表れだ。

事前チェックに川の勉強はかせない

水菜 ● リーダーの人たちは、ほんとうに、たくさんのことを勉強しますね。

博士 ● 安全に川で遊ぶために、川をよく知っていることが絶対に必要だ。RACの指導者たちは川遊びをする川がどんな川か、この川では川遊びができるかをふくめて事前にチェックするのだが、そのときに役に立つのが、講義 5 のような川の知識だ。

早瀬 ● 事前のチェックはかせないと青木さんはいっていました。

博士 ● この川ではどんな遊びができるだろうか？ 上流で雨が降った場合には、たちまち増水してすぐに避難しないと危険な川だろうか？ 危険な生き物はいないか？ など、遊ぶ場所の状態を前もって調べるほか、子どもの顔色からその子の状態を知ることまで勉強している。

水菜 ● 小貝川でも、そういう準備をして、川遊びを教えてくれたのね。



「川における体験活動の指導法②」の実技

●カヤックから転落した場合は、あわてずにカヤックにしがみつくと。カヤックが流された場合は、近くにいるカヤックが遭難者をカヤックの後部につかまらせて岸までもどる。



「川に学ぶ体験活動の基礎技術」の実技

●リーダーはスローロープを腰に装着(上右)。救助の際は、バッグ(赤い部分)を、助けを求めている人がロープをつかみやすいようにねらいを定めて投げる。



川という自然を知る。
 川遊びをする川の個性を知る。
 危険を予知する。
 リーダーにはこれらが必要!

NPO 法人 川に学ぶ体験活動協議会(RAC)連絡・問い合わせ先
 〒104-0033 東京都中央区新川 2-10-6-703 TEL 03-5542-7577 FAX 03-5542-7578
 E-mail: rac@rac.gr.jp ホームページ: http://www.rac.gr.jp/